

ブナアオシャチホコの被害

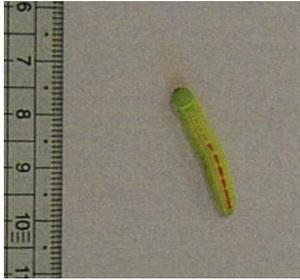


写真-1 ブナアオシャチホコの幼虫（撮影：武藤（会津農林事務所））

○はじめに

ブナアオシャチホコは、幼虫がブナ、イヌブナの葉を食べる蛾の仲間です（写真-1）。このブナアオシャチホコが裏磐梯地域で大発生しました（福島民友新聞,2013.8.21）。幼虫の食害により、磐梯



写真-2 被害林（2013.8.21）



写真-3 磐梯山（2013.9.9）



写真-4 雄国沼（2013.8.27）

福島県においても、11年前の2002年に猪苗代町周辺で被害が発生した記録があります³。

山西側の中腹～猫魔ヶ岳～雄国沼周辺では、葉がなくなったブナ林が広がっていました（写真-2,3,4）。

○大発生の周期

ブナアオシャチホコは、北海道南部や東北地方でしばしば大発生を繰り返しており、その周期はおおよそ8年から11年間のようです^{1,2}。

○大発生の終息

被害は、通常2～3年、長い場合でも4年で終息するとされています。「冬虫夏草」の一種であるサナギタケの寄生や、クロカタビロオサムシによる捕食をはじめ、様々な昆虫寄生性の微生物、寄生バチ、寄生バエなどの天敵の増加がブナアオシャチホコの密度を下げる要因として働くようです^{1,2}。

なお、今回の被害発生が、どのように推移していくのか、経過を追ってゆきたいと考えております。

ブナアオシャチホコ（鎌田,2006）

北海道南部から九州南部に分布。

東北地方では1年に1世代。蛹で越冬。

成虫の出現期間は5月下旬から約2か月

間で最盛期は6月中下旬。成虫の寿命は1

週間から10日。卵はブナの葉裏に産卵す

る。卵は1週間から10日くらいで孵化。

終齢幼虫の出現ピークは7月下旬から8

月中旬。全摂食量の9割を終齢ステージで

摂食するため、失葉もこのころに顕著とな

る。幼虫は老熟すると、樹冠から落下し、

落葉層にもぐって蛹化する。

（引用文献）

- 1 鎌田直人:森林昆虫総論・各論,小林富士夫・竹谷明彦,(株)養賢堂,p295-299 (1994)
- 2 鎌田直人:ブナの食葉性昆虫ブナアオシャチホコの密度変動,日本生態学会誌 56,p106-119 (2006)
- 3 森林病虫獣害発生情報,森林防疫 51, 21,No 609,p243-244 (2002)

（文：福島県林業研センター 森林環境部 蛭田）

平成25年9月31日